



平成22年4月26日

## 消防ヘリ「つばめ」就航式を挙行 —数々の実績を積んだ「つばめ」を新型機に更新—

平成22年4月より運航が開始され、総飛行時間は約6,200時間。林野火災、山岳救助、伊豆諸島における救急搬送、緊急消防援助隊、当庁初の首都高速道路でのヘリによる救助活動などに大活躍した消防ヘリ「つばめ」が新型機種に更新されることに伴い、新「つばめ」の就航式を下記により実施します。

なお、新「つばめ」は、当庁初のヘリコプター搭載用の赤外線カメラ（AERO EYE）が搭載されています。

記

### 1 日時

平成22年4月28日（水）10時00分から11時00分

### 2 実施場所

東京消防庁航空隊庁舎及び第一格納庫

立川市泉町1156-1

### 3 実施内容

- (1) 開式（10時00分～）
- (2) 命名（「つばめ」除幕）
- (3) テープカット（都知事、警察消防委員長、消防庁長官、消防総監、陸上自衛隊立川駐屯地司令）
- (4) 消防総監挨拶（新井 雄治）
- (5) 来賓祝辞（東京都知事 代読 中田 清己 総務局長）  
〃（東京都議会 警察消防委員会 石森 たかゆき 委員長）
- (6) 閉式（～10時30分）

### 4 その他

- (1) **事前レクチャーは、9時40分から式典会場で行います。**
- (2) 取材時は、自社腕章を必ず着用し、係員の指示に従うようお願いします。
- (3) 駐車場は、係員の指示に従って駐車してください。

問い合わせ先

東京消防庁(代)	電話	3212-2111
広報課報道係	内線	2345～2350
装備部航空隊	電話	042-521-0190
総務係	内線	5627

# 消防ヘリコプター 新「つばめ」の紹介

この度導入されるヘリコプターは、ユーロコプター社製(フランス)のAS365N3型中型ヘリコプターで、中型消防ヘリコプター「つばめ」の更新機となります。外観上は、現「つばめ」と比べると機体前方のレドームのデザインが若干変更となり、エンジン制御等は最新テクノロジーを用いた機体に更新されています。今後必要な訓練等を行ない、4月28日から運用を開始する予定です。「新つばめ」は以下の特徴を有しております。

## 1 デジタル制御エンジンの採用

エンジンコントロールを自動化し、エンジンの性能を最大限に生かせるようになり山岳地又は高層ビルでの厳しい環境下においても確実な災害活動が可能となります。

## 2 液晶画面タイプの統合計器(操縦室)

計器に液晶画面を用いることにより1つの計器に多くの情報(機体の高度、速度、姿勢、位置等)を表示させることが可能となり、パイロットが一元的に情報を認識でき、操縦のワークロードが軽減されます。

## 3 胴体下部取付け消火装置

機体胴体下部にタンク装置(900リットル)を取付け、林野火災の消火などに使用します。

## 4 新型救助用ホイスト

電動モーターを用いた長さ90メートルのケーブルを持つホイストは、救助現場で素早く要救助者を機内に収容することができます。

## 5 赤外線カメラ(AERO EYE)

遠赤外線を検知するセンサを搭載したヘリコプター搭載用の赤外線カメラです。これにより夜間飛行時の障害物等の確認が容易となり、安全性が向上されました。

なお、リタイアする現「つばめ」は、平成2年4月より運航が開始され、総飛行時間は約6200時間です。

情報収集、林野火災、山岳救助、山岳地・市街地及び伊豆諸島における救急搬送、緊急消防援助隊の活動、当庁初の首都高速道路での救助活動などに活躍しました。